



伝徳川吉宗筆 桃小鳥図

目 次

博物館のあゆみ

昭和 61 年度	2
昭和 62 年度	6
博物館の名品	10

博物館のあゆみ

昭和61年度

館内業務

1. 特別展

○開館20周年記念特別展「幕末の大奥 皇女和宮と天璋院」

会期＝昭和61年4月16日～5月15日

和宮及び天璋院の調度・衣裳・書画を中心に、将軍家定・家茂・慶喜及び天璋院の肖像（油彩）、家茂所用の銀細工、和宮及び天璋院の家茂宛書状等200余点を展示。共催は静岡新聞社・SBS静岡放送。協力は静岡鉄道。

○特別展「徳川将軍家の名宝」

会期＝昭和62年1月1日～3月31日

館蔵の徳川家康遺品を中心とした美術工芸品を展示。

2. 刀剣類定期手入れ

昭和61年6月7日、池田猪太郎氏の手により館蔵刀剣類の定期点検手入れが行われた。

3. 甲冑の修復

昭和61年7月30日～10月20日、鎧司小沢正美氏に依頼し、青絲威具足（伝13代将軍家定所用）と卯花威胴丸（15代将軍慶喜所用）を修復した。

館外業務

1. 資料の出品

○「戦国武将甲冑展」

会期・昭和61年3月21日～4月20日

会場・大阪城天守閣

重文金陀美具足、角頭巾形兜、紺絲素懸威具足を出品。

○「英雄の時代 伊達政宗と秀吉・家康展」

会期・昭和61年4月19日～6月1日

会場・仙台市博物館

重文鹵朶具足・洋時計・鉛筆・目器・硯箱・桐葵紋絲卷太刀拵と東照大権現像、徳川家康像、徳川16将図、鷺図、金扇馬標を出品。

○「奇想のデザイン 変り兜と陣羽織展」

会期・昭和61年6月16日～7月13日

会場・サントリー美術館

重文大黒頭巾形兜と黒白羅紗陣羽織、紫羅紗筒袖陣羽織を出品。

○特別展「桃山時代の刀剣」

会期・昭和61年10月14日～11月16日

会場・刀剣博物館

重文太刀無銘光世作（付打刀拵）・鹵朶具足・火縄銃（付属品とも）を出品。

○特別展「将軍家康の生活と文化」

会期・昭和61年11月3日～23日

会場・岡崎市三河武士のやかた家康館

重文洋時計・鉛筆・目器・薬刀・花生・櫛・耳盥・けひきばし・脇息・手拭掛・硯箱・燭台・左圭大字・父母恩重經・猛禽玄猿図・柿本人麻呂像を出品。

○「写真展（映像広場）」

会期・昭和62年2月21日～3月1日

会場・静岡市民文化会館

徳川慶喜所用のカメラ2台を出品。

○特別展「家康と日光東照宮」

会期・昭和62年3月21日～4月3日

会場・岡崎市三河武士のやかた家康館

国宝太刀銘真恒（付糸巻太刀拵）と久能山絵図を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・昭和61年7月10日

会場・静岡県立美術館

昭和61年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。席上、松浦館長が会長に再任された。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・昭和61年6月10～11日

会場・岐阜市 岐山会館

昭和61年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

4. 全国博物館大会

期日・昭和61年11月13日～14日

会場・福岡市 都久志会館

第34回大会が開催され、松浦館長、小林学芸主任、多田会計主任が出席。

5. 静岡県文化財保存協会総会

期日・昭和61年6月13日

会場・静岡県立美術館

昭和61年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

6. 学芸職員研究集会

期日・昭和62年1月20日

会場・静岡県立美術館

静岡県博物館協会主催で開かれ、小林学芸主任が出席。

7. 静岡県博物館協会役員会

期日・昭和61年12月16日

会場・静岡県立美術館

松浦館長、小林学芸主任が出席。

庶務報告

1. 昭和61年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	11,525	1,808	1,624	872	535	128	16,492
5月	11,368	2,100	4,450	958	746	177	19,799
6月	5,972	397	1,452	320	414	196	8,751
7月	4,468	648	1,136	167	358	206	6,983
8月	10,801	4,076	492	720	745	141	16,975
9月	5,421	452	1,680	405	369	267	8,594
10月	7,280	585	4,464	474	732	275	13,810
11月	7,201	926	3,207	623	774	110	12,841
12月	3,107	361	332	199	139	33	4,171
1月	9,050	1,935	362	602	336	59	12,344
2月	6,680	775	443	431	278	112	8,719
3月	10,864	2,658	1,068	709	631	79	16,009
計	93,737	16,721	20,710	6,480	6,057	1,783	145,488

2. その他

- 4月1日 静岡県博物館協会の事務局を当館より静岡県立美術館へ移した。
- 4月12日及び19日 SBSラジオ「井出孝の土曜はごきげん」で特別展「幕末の大奥 皇女和宮と天璋院」の紹介収録が行われた。
- 4月18日 静岡県立美術館の開館式に松浦館長が出席。
- 8月14日 「近代日本の洋画と西洋画展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 8月27日 当宮文化財保存顕彰会総会で小林学芸主任が講演。
- 9月20日 静岡県博物館協会の紀要編集会議(於静岡県立美術館)に小林学芸主任が出席。
- 9月21日 静岡県文化財保存協会の文化財講座「草薙神社の龍勢花火」に小林学芸主任が参加。
- 10月5日 静岡県博物館協会主催の文化講演会(講師宮城まり子氏, 於静岡県立美術館)に松浦館長が出席。
- 10月9日 特別展「人間国宝による日本のわざ」(於佐野美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 10月30日 「ダリッチ美術館展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 11月3日 特別展「将軍家康の生活と文化」(於岡崎市)の開会式に松浦館長, 小林学芸主任が出席。
- 11月5日 国立歴史民俗博物館の資料購入評価会に小林学芸主任が出席。
- 11月28日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議(於静岡県庁)に小林学芸主任が出席。

- 12月29日 (株)オフィス・トゥーワン写真部が重文洋時計と家康像を撮影。
- 1月10日 CBCテレビが重文鉛筆を撮影。
- 1月14日、28日及び3月19日 静岡県博物館協会の館園紹介ガイドブック編集会議(於静岡県立美術館)に小林学芸主任が出席。
- 1月26日 防災訓練実施。
- 2月24日 フジテレビが重文薬道具を撮影。
- 2月27日 静岡けんみんテレビが重文家康遺品を撮影。
- 3月24日 NHKテレビが重文家康遺品を撮影。
- その他 この期間に下記の人々が来館した。

内山淳一氏(仙台市博物館学芸員, 4月10日及6月8日), 井出孝氏(井出コレクション代表, 4月12日), 栗原澄子氏(国学院栃木短期大学, 4月15日~16日), 松平乗昌氏(4月16日), 徳川恒孝氏・徳川宗敬氏(4月17日), 梅田亮三氏(大塚巧藝社, 4月17日), 中村博司氏(大阪城天守閣主任学芸員, 4月24日), 吉田善彦氏(日本美術院同人, 4月25日), 安藤綾信氏(4月27日), 松平信次氏(4月29日), 小沢正美氏(鑑司, 4月29日, 6月30日, 10月9日, 11月19日, 3月29日), 池谷和三氏・織田元泰氏(静岡県史編さん室, 4月30日), 金原宏行氏(浜松市美術館学芸員, 5月2日), 渡辺妙子氏(佐野美術館副館長, 5月6日), 岡本奨氏(東京農工大学名誉教授, 5月12日), 大倉基佑氏(大倉集古館学芸員, 5月14日), 立花義彰氏(静岡県立美術館学芸員, 5月15日), 神尾幸男氏(岡崎市観光課, 5月26日), 瀧本浩成氏(岡崎市観光課, 5月26日及11月26日), 小山時彦氏(岡崎市観光課, 5月26日及3月17日), 堀江登志美氏(岡崎市観光課学芸員, 5月26日, 10月30日, 11月17日, 26日, 3月17日), 上野晴朗氏(武田氏研究家, 6月3日), 門脇良充氏(潮出版社制作部長, 6月3日), 嘉藤美代子氏(仙台市博物館学芸員, 6月8日), 渡辺正夫氏(中日新聞東海本社, 6月8日), 栗野克巳氏(静岡県埋蔵文化財調査研究所主任調査研究員, 6月15日), 内田欽三氏(サントリー美術館学芸員, 6月16日及8月9日), 榎原悟氏(サントリー美術館学芸員, 7月21日), 越山昌美氏(サントリー美術館, 8月9日), 穴戸忠男氏(高倉文化研究所, 8月19日), 加島進氏(刀剣博物館, 8月23日), 小林暉昌氏(刀剣博物館, 8月23日, 10月9日, 25日, 11月19日), 宮城島洋子氏(週間エル編集部記者, 10月14日), 武内善信氏(和歌山市立博物館学芸員, 10月14日), 脇田修氏(大阪大学教授, 10月27日), 沈景良氏・任燕棠氏・楊樹林氏・盧同庚氏(中国浙江省, 11月30日), 杉山一彦氏(静岡新聞社記者, 12月7日), 三浦弘万氏・村上義和氏(静岡大学, 12月9日), 豊田高広氏(静岡市社会教育課, 1月8日及2月20日), 鶴田孝一氏(大塚巧藝社, 1月10日及2月17日), 黒沢脩氏(静岡市立図書館, 2月1日), 利倉隆氏(新集社, 2月10日), 杉本安氏(岡崎市竜海中学校教頭, 2月11日), 大崎勝子氏・鈴木裕子氏(瑞鳳殿, 2月13日), 竹内正直氏(徳川黎明会, 2月17日), 望月貞利氏(静岡市観光係長, 2月17日及21日), 徳川慶朝氏(2月21日), 若柳和明氏(静岡けんみんテレビディレクター, 2月21日及27日), 杉本均氏(フジテレビ記者, 2月24日), 下川達彌氏・濱井隆氏(長崎県立美術博物館, 3月12日), 天野忍氏(静岡県文化課, 3月13日), 林健太郎氏(元東京大学長, 3月13日), 小野禮子氏・本吉正宏氏(総南博物館, 3月16日), 吉田直久氏(NHK教養番組センター, 3月24日), 槇田昭二氏(静岡県立美術館副館長, 3月26日), 井上俊武氏(名古屋城管理事務所長, 3月29日)。

昭和62年度

館内業務

1. 特別展

○館蔵 徳川将軍の武器展

会期＝昭和62年4月1日～5月31日

館蔵品より刀剣を中心とした武器類80点を展示。

○久能山東照宮の秘宝展

会期＝昭和63年1月1日～3月31日

館蔵の甲冑・刀剣等70点を展示。

2. 資料の寄贈

昭和62年11月16日、元学習院女子短期大学講師山下一郎氏より家蔵の名家書蹟60件67点の寄贈を受けた。

3. 刀剣類定期手入れ

昭和62年12月1日、池田猪太郎氏の手により館蔵刀剣類の定期手入れが行われた。

4. 甲冑の修復

昭和62年6月15日～11月6日、鎧司小沢正美氏に依頼し、貫衆具足（4代将軍家綱寄進）と縹糸素懸威具足（伝12代将軍家慶所用）を修復した。

5. 「館報第9号」の発刊

昭和62年12月11日、昭和59・60年度の事業報告と博物館の名品を紹介した「館報第9号」を発刊した。

6. 「研究紀要 創刊号」の発刊

昭和62年12月11日、論考一編と資料紹介二編を掲載した「研究紀要 創刊号」を発刊した。

館外業務

1. 資料の出品

○特別展「家康と日光東照宮」

会期・昭和62年3月21日～4月3日

会場・岡崎市三河武士のやかた家康館

国宝太刀銘真恒（付糸巻太刀拵）と久能山絵図を出品。

○特別展「幕末の動乱と紀州」

会期・昭和62年4月26日～5月24日

会場・和歌山市立博物館

太刀銘（葵紋）藤原是一（付糸巻太刀拵）、萌葱糸威具足、尻鞘、腰当、馬面（以上14代将軍家茂遺品）を出品。

○「奈良甲冑師展」

会期・昭和62年4月29日～5月31日

会場・奈良県立美術館

重文齒朶具足、紺糸威鎧、紫糸肩紅糸威鎧、八方白星兜、大黒頭巾形兜、画草染紙（3枚）を出品。

○「将軍の鷹狩りと目黒展」

会期・昭和62年10月1日～11月8日
 会場・日黒区守屋教育会館郷土資料室
 徳川将軍肖像写真パネル4枚を出品。

○特別展「日本の甲冑」

会期・昭和62年10月6日～11月8日
 会場・京都国立博物館
 重文金陀美具足・白檀塗具足・齒朶具足を出品。

○「瑞竜寺と旭姫展」

会期・昭和62年10月7日～11月3日
 会場・静岡市文化財資料館
 薙刀無銘国宗を出品。

○「帝王図公開に伴う 近世長崎のあけぼの展」

会期・昭和62年10月9日～11月3日
 会場・長崎県立美術博物館
 重文洋時計・鉢・びいどろ壺・けひきばし・火縄銃を出品。

○特別展「姫路城とその時代」

会期・昭和62年10月10日～11月29日
 会場・兵庫県立歴史博物館
 東照大権現像（天海賛写）を出品。

○「戦国の武将 その生活と文化展」

会期・昭和62年10月23日～11月23日
 会場・犬山市文化史料館
 東照大権現像、織田信長黒印状、鍵長吉、薙刀志津、太刀三池（写）、角頭巾形兜を出品。

○「武田信玄展」

会期・昭和63年1月2日～12日
 会場・東京東武百貨店8階イベントプラザ
 東照大権現像（伝狩野養信筆）と太刀三池（写）を出品。

○「徳川慶喜と静岡展」

会期・昭和63年3月4日～4月3日
 会場・（財）駿府博物館
 徳川慶喜像（油彩・写真）、卯花威胴丸、刀平安城長吉（付絲巻太刀拵）、カメラ、煙草入、釣道具、軍帽、慶喜書蹟8幅、油絵2面等27件を出品。

2. 静岡県博物館協会総会

期日・昭和62年5月20日
 会場・静岡県立美術館
 昭和62年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

3. 東海地区博物館連絡協議会総会

期日・昭和62年6月18日～19日
 会場・静岡市 たちばな会館
 昭和62年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任、花房学芸員補が出席。

4. 全国博物館大会

期日・昭和62年10月6日～9日

会場・北海道釧路市

第35回大会が開催され、松浦館長が出席。

5. 静岡県文化財保存協会総会

期日・昭和62年6月12日

会場・静岡県立中央図書館

昭和62年度総会が開催され、松浦館長、小林学芸主任が出席。

6. 学芸職員研究集会

(a)期日・昭和62年12月15日

会場・静岡県立美術館

(b)期日・昭和63年2月16日

会場・(財)佐野美術館

静岡県博物館協会主催で開かれ、小林学芸主任が出席。

庶務報告

1. 昭和62年度入館者状況

区分 月	大人	小人	団体	ロープウェイ と共通	クーポン	無料	計
4月	7,785	1,418	2,499	485	395	153	12,735
5月	9,078	1,983	4,288	816	716	86	16,967
6月	4,895	258	1,369	388	373	234	7,517
7月	4,557	631	886	385	328	114	6,901
8月	10,056	3,883	524	1,019	974	71	16,527
9月	5,271	374	1,247	749	373	120	8,134
10月	6,495	536	5,344	800	713	231	14,119
11月	7,847	963	3,160	1,236	662	105	13,973
12月	2,965	342	791	595	236	112	5,041
1月	9,346	1,982	288	1,566	292	28	13,502
2月	7,297	781	933	1,205	343	126	10,685
3月	8,458	1,989	1,937	1,419	594	154	14,551
計	84,050	15,140	23,266	10,663	5,999	1,534	140,652

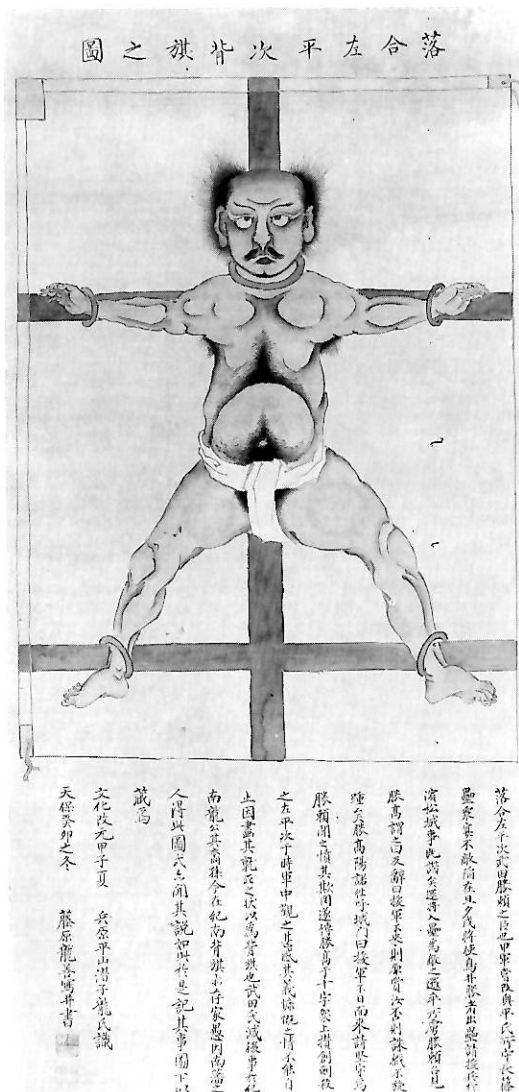
2. その他

- 4月27日 静岡県文化財保存協会の会報編集会議（於静岡県庁）に小林学芸主任が出席。
- 6月3日、7月14日、21日、30日、8月27日、10月27日、11月24日 静岡県博物館協会の館園紹介ガイドブック編集会議（於静岡県立美術館）に小林学芸主任が出席。
- 6月29日 日本博物館協会の評議員会（於尚友会館）に松浦館長が出席。
- 9月30日付で花房学芸員補退職。
- 10月2日 徳川美術館の新館開館式に松浦館長が出席。
- 10月23日～24日 「近世長崎のあけぼの展」を松浦館長、小林学芸主任が視察。

- 10月31日 刀剣研究家の広井雄一、渡辺国雄、河端照孝、小泉富太郎、飯田一男、富士繁雄の各氏が当館の刀剣を特別拝観。
- 11月21日 「ホイスラー展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 11月29日 「中国歴代女性像展」(於富士美術館)の開会式に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 1月5日 「六大浮世絵師名品展」(於静岡県立美術館)の開会式に松浦館長が出席。
- 2月20日 富士美術館前館長角田力松氏の葬儀に館長代理で小林学芸主任が出席。
- 2月25日 国立歴史民俗博物館の資料購入評価会に小林学芸主任が出席。
- 2月27日 静岡県博物館協会主催の文化講演会(講師原秀三郎氏等、於静岡県立美術館)に松浦館長が出席。
- 3月9日 清水市の寿大学で小林学芸主任が講演。
- 3月10日 静岡県より寄託されていた刀剣、銃砲類を返還。
- その他、この期間に下記の人々が来館した。

榎本達氏(目黒区守屋教育会館, 4月3日, 9月21日, 11月17日), 堀江登志美氏(家康館学芸員, 4月7日), 法制史学会員36名(4月8日), 鶴田孝一氏(大塚巧藝社, 4月17日及1月14日), 寺西貞広氏(和歌山市立博物館学芸員, 4月22日), 武内善信氏(和歌山市立博物館学芸員, 4月22日及6月2日), 宮崎隆旨氏(奈良県立美術館学芸課長, 4月24日及6月6日), ドナルド・シャイブリー氏(カルフォルニア大学教授, 4月28日), エリザベス・ベリ女子(同準教授, 4月28日), 山田蓉氏(熱田神宮, 5月2日), S・J・ゴマソール氏(イギリス大使館参事官, 5月13日), 守屋明氏(静岡県商工部主査, 5月13日), 鈴木勲氏・広田富士松氏・小針由紀隆氏(静岡県立美術館, 5月13日), 今泉泰之氏(埼玉県文化課, 5月14日), 芝健氏(静岡県教育長, 5月15日), 広井雄一氏(文化庁文化財調査官, 5月19日及9月4日), 清水義明氏(プリンストン大学教授, 5月19日), 杉山茂氏(テレビ静岡ディレクター, 5月22日及26日), 川松康人氏(町田市立博物館学芸員, 5月31日), 勢喜出氏(読売新聞社記者, 6月4日), 赤澤淑章氏(静岡けんみんテレビ, 6月4日), 稲田和彦氏(京都国立博物館主任研究官, 6月6日), 柳生宗久氏(6月13日), 増田之宏氏・竹下晃氏(静岡鉄道総務部, 7月20日及11月7日), 松井良祐氏(兵庫県立歴史博物館学芸員, 7月21日, 10月6日, 12月5日), 堀田浩之氏(兵庫県立歴史博物館学芸員, 7月21日), 亀山千鶴男氏(静岡県文化課長, 8月19日), 小笠原信夫氏(東京国立博物館刀剣室長, 8月21日), 野本寛一氏(静岡県文化課, 8月28日及3月10日), 石日富氏(台湾国立中正紀念堂管理處文教組主任, 9月13日), 松田英美氏(静岡市文化財資料館長, 9月18日), 下川達彌氏(長崎県立美術博物館主任学芸員, 9月21日及11月14日), 木下稔氏(犬山市文化史料館, 9月22日, 10月17日, 11月30日, 2月1日, 2日, 18日), 河原正彦氏(京都国立博物館工芸室長, 9月25日), 菅村亨氏(兵庫県立歴史博物館学芸員, 10月6日及12月5日), 大塚克美氏(菊川文庫長, 10月8日), 南哲氏(神戸大学, 10月11日), 森威史氏(静岡人類史研究所長, 10月25日), 加藤聖子氏(サンケイ新聞社事業部, 10月25日, 12月22日, 1月17日), 山下一郎氏(11月4日), 日比野秀男氏(静岡県立美術館主任学芸員, 11月4日及3月4日), 橋本一夫氏(ヤマト美樹, 6月15日, 11月6日及16日), 大重薫子氏(大阪市立美術館学芸員, 11月7日), 泉武夫氏(京都国立博物館, 11月24日), 浅井忠氏(12月2日), 井上輝夫氏(富士山資料館学芸員, 12月3日), 佐世陽一氏(テレビ西日本, 12月3日資料撮影), 呂長生氏・邵文良氏(中国歴史博物館, 12月21日), 内藤俊彦氏(東北大学植物園, 1月5日), 安本収氏(駿府博物館学芸員, 1月8日及2月29日)

日), 望月真澄氏(身延山宝物館学芸員, 1月14日), 内藤昌仁氏(静岡第一ビデオ, 2月8日資料撮影), 秋山努氏(SBS編成部, 2月9日及22日), 杉山氏(静岡新聞社文化部, 2月18日), 小杉達氏(静岡県文化課, 3月4日及10日), 吉田豊氏(堺市博物館学芸員, 3月31日)。



博物館の名品 7

落合左平次背旗図 藤原龍善作

天正3年(1575)5月、武田勝頼のため長篠城外で磔死した鳥居強右衛門(奥平信昌の臣)の豪勇さに感ずる落合左平次(勝頼の臣)は、その最期の姿を己の旗指物に描いて戦場にのぞんだという。本図は、文化元年(1804)その旗指物の図を得て平山子竜が識語を加えたものを、更に天保14年(1843)に藤原龍善が写したものである。絹本淡彩 縦114.7 横55.6



博物館の名品 8

はなだいとおとし
縹糸 威具足 徳川綱吉所用

兜は黒塗六十二間星鉢阿古陀形で、八幡座を赤銅唐草毛彫円座・菊座・玉縁等で飾り、笠印鏝には牡丹花を打ち、総角には縹角八打の付け房を付ける。褌は饅頭形の五段下りで一段を吹返し縹糸で素懸に威す。眉庇・吹返ともに黒塗で唐草毛彫の赤銅覆輪を廻らし、吹返の据文には赤銅獅子を配す。鉢の正面には角本があり木製金箔の鍬形を付ける。鉢裏の受張は藍木綿で縹忍緒は三所付とする。見上は朱塗である。胴は蝶番による二枚胴で、立挙前三段・後四段、衝胴四段、草摺七間五段を縹糸で毛引に威す。金具廻りの草所は黒塗雁木仕立に赤銅唐草覆輪を廻らす。八双金物及び総角の鏝には赤銅牡丹花を打ち、総角には縹角八打の付け房を付ける。胴裏には黒草で各段に敷が入る。大袖は七段で笄金物に牡丹花を打つ。その他に、錆地で槽毛の髭の付く目の下頬当、喉輪、本小札二段の脇引、小田籠手、威し佩盾、七本篠脛当が付随する。重量14,180グラム。

久能山東照宮博物館報

— 第 10 号 —

昭和63年 6 月10日 発行

編集発行 久能山東照宮博物館

〒422 静岡市根古屋390

TEL. 0542 (37) 2 4 3 7